

新宿区 歌舞伎町再生プロジェクト 活動報告書

東洋大学大学院 経済学部 公民連携専攻

2010年3月29日





1. サマリー

1-1. サマリー	P3
-----------	----

2. 背景

2-1. 歌舞伎町ルネッサンスとは	P4
2-2. 東洋大学大学院との関わり	P5

3. 東洋大学大学院における活動

3-1. 活動目的	P6
3-2. 具体的な活動: 東新宿WAの学校プロジェクトとは	P7
3-2-2. 街ナカ茶会	P8
3-2-3. まちづくり落語会	P9-P10
3-3. 修士論文	P11

4. 今後の課題と、活動方針

4-1. 活動後の課題と活動方針	P12
------------------	-----



背景

2005年1月に設立された歌舞伎町ルネサンス推進協議会に、東洋大学根本教授が委員として参画していたことがきっかけで、清水客員教授も歌舞伎町の家守事業に関わる

東洋大学大学院における活動目的

PPP(公民連携)によるまちづくりの観点より、歌舞伎町の再生に向けた研究及び取組みを開始

具体的な活動方法

PPP演習

清水ゼミにおける、調査研究活動

活動実績

1. PPP演習:
2008年度「大久保公園を活用したエンタ-テインメント&スポーツ施設整備事業」のRFPを作成
2. 調査研究活動
新宿区長に対し歌舞伎町再生プロジェクトの提案
上記の提案をもとに、東新宿WAの学校プロジェクトを発足

成果

- 成果1:東新宿WAの学校プロジェクトを発足し具体的な活動基盤を構築
- 成果2:
2009年度の修士論文(3件)
文化創造街づくりによる公共トイレ
段差解消から始めるユニバーサルデザインの街づくり

今後の課題と活動方針

- イベント実施後、地域との課題の共有が十分でない
- 論文の研究成果を、まちづくりへ具体的に反映
- 一層の対話と交流の機会作り
- 今後の活動における方針策定

いま歌舞伎町が 変わろうとしています

「歌舞伎町ルネサンス」は、歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちにするための取り組みです。歌舞伎町ルネサンスの目標は、歌舞伎町を「大衆文化・娯楽の企画、制作、消費の拠点」とすること、つまりエンターテインメントシティへの再生です。

この将来ビジョンの実現に向けて、歌舞伎町の方々や有識者、事業者、警察・消防などの関係機関、国の省庁そして新宿区をメンバーとする歌舞伎町ルネサンス推進協議会（P6参照）の下に「クリーン作戦」（環境・浄化・美化）、「地域活性化」（新たな文化の創造と発信）、「まちづくり」（健全で魅力あるまちづくり）、「喜兵衛」（タウン・マネジメント）の4つのプロジェクトを設け、ルネサンス活動を展開しています。

2005年
1月

歌舞伎町ルネッサンス推進協議会発足当初より、根本教授が有識者メンバーとして参加

2008年

根本教授の講義(PPP演習)にて

「大久保公園を活用したエンタ - テイメント & スポーツ施設整備事業」に関する提案に取り組む
5つの提案・・・新宿区大久保公園の改修が検討されていた

「賑わいの中にもゆとりの空間を(エコ・リンクとライブハウス)」 「太陽プロジェクト(スポーツ&コミュニケーション)」
「ミズノ歌舞伎町ドリーム」 「シルク・ド・歌舞伎・シアター」 「SaccS(アジアクロスカルチャースクエア)」

2008年度以降、清水客員教授が歌舞伎町家守事業に参加していたことがきっかけで、ゼミにて以下の活動を行う

1. 新宿区長に対し歌舞伎町再生プロジェクトの提案
9つの提案・・・(一部抜粋)

「東新宿茶室」プロジェクト(緑の多い神社から「和」を発信し、「茶室」を「みち空間」でつなぐ街再生)
「ようこそ!歌舞伎町」プロジェクト(外国人居住者が地域と繋がることができ、観光客へも対応
「効果的な車両誘導のための「サイン」計画」活かされない駐車場の有効利用
「トイレから始める歌舞伎町活性化計画」新たな顧客層を呼び込むには、トイレ作りを見直す

2. 上記 「東新宿茶室プロジェクト」の提案をもとに、東新宿WAの学校プロジェクトを発足。
東新宿地域近隣の特徴として、アジア系を始め多文化・多国籍の住民が増加しており、地域に根付く日本文化を通して“共生できる まちづくり”を研究するに至った。

上記1と2の活動では、地域の事業者・住民へのヒアリング等を実施した。

東新宿WAのプロジェクトが目指すこと

【第1ステップ】

地域の再生に向けて、住民との交流・対話を通じて、住民視点により課題を抽出する

【第2ステップ】

抽出した課題について、解決にむけた手法の研究をする

第1ステップでの取組み

1. イベントを実施するための、事前準備(下地作り)

- ・地域清掃活動への参加
- ・地域関係者(町会、商店会、事業者等)とのネットワークづくり

2. 地域の選定(なぜこの地域か?)

歌舞伎町のまち歩きをするうちに、歌舞伎町二丁目の鬼王神社周辺(副都心線東新宿駅周辺)エリアは、ホテル街と大規模再開発事業予定地に囲まれた、無色透明な空間であることに気が付いた。この地域が歌舞伎町まちづくりの起爆剤となるのではと考えた。



3つの「WA」

1. 輪（人のつながり）
2. ワ！（感動、驚き）
3. 和（日本文化）



まちづくりについて考えていく「場」を、“東新宿WAの学校”と名づけました

この活動を、
「まちづくり」に
繋げていくために
考えたこと

- 地域の特性や歴史的観点からのアプローチを取り入れる
（歴史的・文化的資産を外部に発信）
- まちを構成する人を繋げていくことが不可欠

地域文化と関わりのある茶道や大衆文化・娯楽としての落語など
日本の伝統文化を絡めたイベントを企画・実施

イベントを通じ、まちづくりに関わる多くの人と出会い、
繋がる輪を広げて、地域目線で課題を把握する



目的	和文化のひとつである茶道による地域でのネットワークづくりの実践 「東新宿WAの学校」のキックオフイベントとしての位置づけ
きっかけ 内容	地元の方へのヒアリングで、地域おこし映画の自主上映・産直品販売のイベントの趣旨に賛同し、参加を決定した
対象	開催場所周辺の住民の方々・地域活動に従事するの方々
日時・場所	2009年9月23日(祝) 四谷ひろば(旧四谷大四小学校)
実績	約30名(来場者)
成果	具体的な活動の実施ノウハウの蓄積、限定的ながら地域の関係者との連携
課題 反省点	地域でのネットワークの形成、ニーズの把握それに適合したイベント形態や詳細の検討が不十分であった。(イベントと茶会の趣旨や対象者のミスマッチ・開催場所の周辺地域での位置づけの把握が不足していた等) 集客・PR不足
今後の 活かし方	「まちづくり落語会」で上記課題を念頭に地域の方々との連携、集客、PR、企画を行った



<p>目的</p>	<p>和文化のひとつである落語による地域でのネットワークづくりの実践 「東新宿WAの学校」の第2回イベントとしての位置づけ。懇親会実施による人的交流。</p>
<p>きっかけ内容</p>	<p>昔は歌舞伎町にも足しげく通った人々も近年の風俗街としてのイメージの悪さから「今歌舞伎町に行きたいとはあまり思わない」と足が遠のいている現実があった。 鬼王神社という狭地空間にある文化的資産を活用し、「何があれば歌舞伎町に行きたいか?」という視点から、鬼王神社を中心とした東新宿のまち歩きと、神社での落語会、「まちづくり」のフリートーキングを実施。</p>
<p>対象</p>	<p>開催場所周辺の住民の方々・地域活動に従事するの方々 まちづくり、落語に関心のあるメディア、学生等、特に限定しない</p>
<p>日時・場所</p>	<p>2009年10月31日(土) 鬼王神社</p>
<p>実績</p>	<p>約名40(来場者)</p>
<p>成果</p>	<p>具体的な意見の蓄積、幅広い層の方々の参加・交流 限定的ながら地域の関係者との連携</p>
<p>課題 反省点</p>	<p>次ページ、 「アンケート回答から得た、評価・反省点」参照</p>
<p>今後の活かし方</p>	<p>フリートーキングで得た沢山の意見を、今後どのように地域の「まちづくり」に繋げていくかをゼミ内で考え、地域の課題(WAのプロジェクトとして追求していく課題)を抽出してく</p>

第1回 東新宿WAの学校

落語を楽しみ、 まちづくりを考えよう

350年以上もの間、歌舞伎町を見守ってきた鬼王神社。その宮司さんと一緒にまち歩きをし、神社で落語を聞き、まちづくりについて語り合います。


日程 10月31日(土)

14:40 社務所にて受付開始
15:00 大久保宮司と一緒に東新宿のまち歩き(希望者のみ)
16:00 落語 柳家小は丸
17:00 まちづくりトーク(お茶・お菓子付)
18:00 終了予定

会場 **鬼王神社(新宿区歌舞伎町2-17-5)**

木戸銭(料金) **1000円**

定員 **30名**



◆申込方法
10/18(金)までに、メールにてお申し込みください。タイトルを「まちづくり落語会申込」とし、本文に参加希望者全員の①お名前②住所③電話番号④まち歩き参加希望の有無⑤代表者の当日連絡先(携帯など)をご記載の上、wanagakkou@yahoo.co.jpまでお送りください。

※頂いた個人情報は、「第1回東新宿WAの学校」のイベント開催の目的以外には、一切使用いたしません。(①～③は行事保険加入のため使用します。)
※申込先着順となりますので、予めご了承ください。

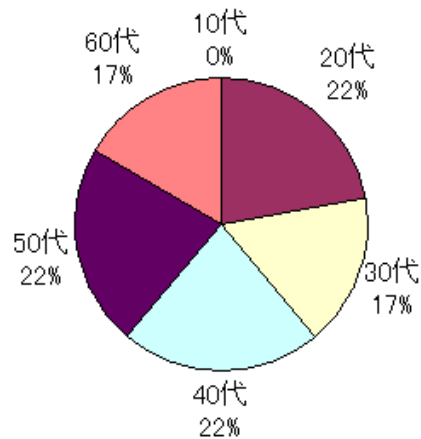
◆お問い合わせ
東新宿WAの学校プロジェクト事務局 担当 平井
携帯 080-3414-6324 (ただし月曜～金曜の9時～17時) **【集客用チラシ】**



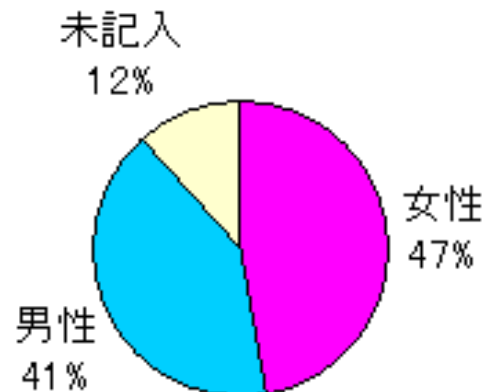
参加者の属性

年齢、性別、職業を問わず、幅広い方々興味関心があることが分かりました

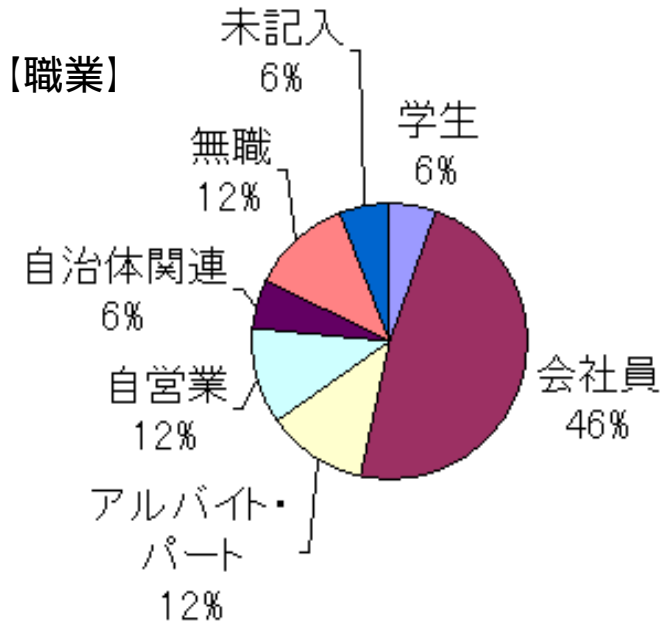
【年代】



【性別】



【職業】



アンケート回答から得た、評価・反省点

- ・落語という匠の技と笑い、和やかな雰囲気、また神社という特殊な場所での開催も好評だった。
- ・まちあるきではゴールデン街や歴史・文学史跡の関心が高く、世代により懐かしさやなかなか一人で訪れることのない場所の意外性が魅力となっている。
- ・フリートークでは、地元の方々から地域の移り変わりのお話が聞けたことへの共感が高かった。
- ・「まちづくり」という概念が地域内での交流なのか、外部から人を呼ぶ「まちおこし」的なものか不明瞭であると感じる参加者もあった。
- ・今後の活動への一番大きな期待は、在日韓国人やほかの在日外国人の方々との交流（料理など）その場合和の文化に限定する必要はないとの意見もあった。

1. 店舗の段差解消から始めるユニバーサル・デザインのまちづくり(歌舞伎町からの提案)

- ・道空間のUDを研究テーマとし、小型店舗の出入口の段差問題に着目し解消モデルを考察した。提案場所は全国の先行モデルになるべきまちと考え新宿区歌舞伎町一番街とした。
- ・補助金・助成金、構造改革特区を活用した最低保証概念のUDと、RFQ(応募資格要件)、RFP(募集要項)を用いた最適概念のUDまちづくりを目指す提案を行った。
- ・公民連携のコンセプトを適用し、さまざまなUDのまちづくりが推進されることを期待した。

2. 公民連携により公共トイレをまちづくりに活かす～新宿区歌舞伎町への提案

日本における公共トイレの歴史についての概観・公共トイレの先行事例研究から、「『公共トイレをまちづくりに活かす』ためには、官民間問わず様々な関係者の連携が必要であり、『公民連携(PPP)』が有効である」ことを提示した。そして、歌舞伎町の公共トイレの実態調査から、「歌舞伎町は、まちの中心部(特に1丁目)が『使える公共トイレ』の空白地帯となっており、2丁目を含めても、隣接するJR新宿駅東口周辺と比較して、グレードの低い公共トイレしか無い」ことが明らかとなった。そこで、歌舞伎町の中心部にあるコマ劇場跡地開発に絡め、様々な関係者の連携による「まちにとって外部経済となるPPP公共トイレをつくる」という提案をまとめた

3. 文化創造まちづくりによる都市再生に関する一考察

文化創造まちづくりによる都市再生に関する考察を行った。“文化・芸術”や“創造都市”をキーコンセプトとするまちづくり事例の分析から文化創造まちづくりによる都市再生モデルを構築し、現実への適用可能性の検証を行うとともに、新宿区の文化創造のまちづくり「歌舞伎町ルネッサンス」へ適応を試みた。



現在の課題

- イベントの実施後、地域との課題の共有が十分でない
- 論文の研究成果の活用

解決策

- 一層の対話と交流の機会作り
地元の住民・商店街振興組合や町会の方々と協議を開始した。
- 論文テーマの1つである、公共トイレ不足は地元においても切実な問題。
地元への論文発表、課題への取組み要望を受け、活動を検討していく。

今後の活動における方針

- 東新宿WAの学校では、在住外国人の方々との交流、共生をめざす活動や情報発信に取り組んでいく。
- 大学院修了生のリサーチパートナーと共に、新宿区との協定も視野に地元と連携し、草の根活動を推進していく。